



HOUSE FOODS GROUP REPORT

株主のみなさまへ 第70期 営業のご報告

2015年4月1日～2016年3月31日



食でつなぐ、人と笑顔を。





株主のみなさまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年3月期の事業の概況をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

ハウス食品グループ本社 取締役社長

浦上 博史

このたびの平成28年熊本地震により、お亡くなりになられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

海外事業の伸長や(株)吉番屋の連結子会社化、各事業の収益力強化などにより、全体では増収増益となりました。

当連結会計年度における経営環境は、海外経済の不確実性の高まりなどを背景とした景気下振れが懸念されたものの、全体では緩やかな回復基調が続きました。食品業界におきましては、消費マインドの停滞や原材料価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続くなか、安全・安心への取組、お客さまの生活スタイルの変化への対応などが求められております。

このような環境下におきまして、当社グループは、当連結会計年度より開始した第五次中期計画において“「食で健康」クオリティ企業への変革”をテーマに、国内事業の収益力強化と新規需要の創出、海外事業の成長加速に向けた施策を進めております。

売上面につきましては、香辛・調味加工食品事業、健康食品事業の国内コア2事業が減収となりましたが、海外食品事業の伸長や2015年12月に(株)吉番屋を連結子会社化した影響などにより、当連結会計年度の売上高は2,418億93百万円、前期比4.5%の増収となりました。

利益面につきましては、各事業が収益力強化に向けた取組を進めたことで、営業利益は107億75百万円、前期比24.0%の増益となりました。経常利益は121億52百万円、前期比10.9%の増益、当期純利益は、(株)吉番屋株式の追加取得に伴って発生した段階取得に係る差益を特別利益に計上いたしましたことなどから226億32百万円、前期比224.6%の増益となりました。なお、第4四半期連結会計期間より(株)吉番屋ののれん等の償却を開始しております。

期末配当は、当初予定どおり1株当たり15円といたしました。

当社グループでは従来より、連結配当性向30%以上を基準とした安定的な配当を目指すことを、利益配分の基本方針としておりました。しかし、当期より(株)吉番屋を連結子会社化したことに伴い、当期を含めて当面の間、段階取得株式の特別利益の発生、のれんや無形固定資産の償却により、現金の動きを伴わない損益の変動が大きくなることが見込まれます。

このため、利益配分の基準となる原資からこのような変動要因を除いた方が安定的配当を具現化できるものと考え、当期より利益配分の基本方針を「企業結合に伴い発生する特別利益やのれん償却の影響を除く連結配当性向30%以上を基準とした安定的な配当を継続する」ことに修正いたします。

2016年3月期の期末配当は、当初予定どおり、1株当たり15円とし、年間では、中間配当1株当たり15円と合わせて、1株当たり30円といたしました。これにより、連結配当性向は13.6%となりますが、企業結合に伴い発生する特別利益やのれん償却の影響を除いた連結配当性向は32.0%となります。

次期の配当につきましては、1株当たり年間30円(中間配当15円・期末配当15円)を予定しております。

国内事業の収益力強化と新規需要の創出、海外事業の成長加速に向けた施策を進めてまいります。

当社グループを取り巻く経営環境は、国内成熟市場における世帯構成の変化、生活者の食スタイルの変化、消費マインドの低下傾向の懸念、新興国の需要増を背景とした原材料価格の高騰など、不透明感が増してくるものと予想されます。

このような環境下におきまして、当社グループは2015年4月よりスタートした第五次中期計画の2期目を迎え、“「食で健康」クオリティ企業への変革”をテーマに、国内事業の収益力強化と新規需要の創出、海外事業の成長加速に向けた施策をさらに推進してまいります。

香辛・調味加工食品事業、健康食品事業は、収益の柱を担うコア事業として、マーケティング戦略の遂行により主力製品のブランド価値を高め、収益力のさらなる強化を図るとともに、確かな技術をベースにして成熟市場における新たな需要の創造に取り組んでまいります。

海外食品事業は、米国・中国・東南アジアの重点3エリアにおいて、参入マーケットの成長を確実に取り込み、食文化の壁を超え、事業規模の拡大に努めてまいります。

外食事業は、グループ一体となった連携を推し進め、国内外でのカレーのメニュー価値向上に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

グループ理念

食を通じて人とつながり、笑顔ある暮らしを共につくるグッドパートナーをめざします。

時代によって食のカタチが変化しても、変わらない食のチカラがあります。食のチカラは、人を育み、人をつなぎ、人を笑顔にします。

私たちハウス食品グループは、食を通じておいしさと健康をお届けし、人とつながり、人と人をつなげたい。絆やぬくもりを大切に、すべてのステークホルダーと共に笑顔ある暮らしをつくりたい。

常に新しい価値を創造しながら。

家庭の食卓はもちろん、外での食事、さらに世界でも。食に関わるすべてのシーンへ。

お客さまの笑顔、社員とその家族の笑顔、そして笑顔あふれる社会を共につくるグッドパートナーをめざします。

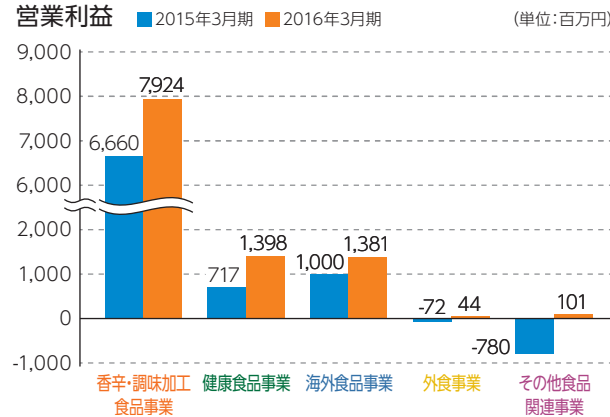
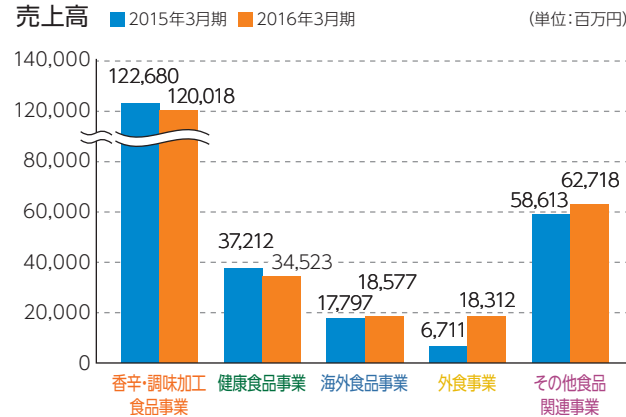
創業理念

日本中の家庭が幸福であり、そこにはいつも温かい家庭の味ハウスがある。～幸せな家庭のマーク～

事業セグメント別概況

Segment Information

※海外事業から名称変更



香辛・調味加工食品事業 | 売上高 1,200 億円(前期比97.8%) | 営業利益 79.2 億円(前期比119.0%)

当事業セグメントは、「食の外部位化」などの事業を取り巻く環境変化に対し、「より健康、より上質、より簡便、より適量」にフォーカスした製品・サービスの提供を通じて、「既存領域の強化」および「新規領域の展開」に取り組んでまいりました。

当期は、2015年2月に実施したルウカレーなどの主力製品における製品価格改定後の新しい値ごろの早期浸透、および国内成熟市場におけるマーケティングコストの効率的運用、コスト削減などの収益基盤の維持強化に注力いたしました。

以上の結果、香辛・調味加工食品事業の売上高は1,200億18百万円、前期比2.2%の減収、営業利益は79億24百万円、前期比19.0%の増益となりました。



健康食品事業 | 売上高 345 億円(前期比92.8%) | 営業利益 14.0 億円(前期比194.9%)

当事業セグメントは、主力製品の収益向上と次の成長に向けた仕込みに取り組んでまいりました。

当期は、「ウコンの力」シリーズの再構築、「C1000」シリーズのチャネル対応強化に注力し、「ウコンの力」は通期減収となりましたものの、お客さまの飲用シーンに近づいたプロモーションが奏功した下期は前年同期を上回るなど回復傾向にあります。

当事業セグメントの売上高は、販売受託製品の大幅減や一部製品の終売影響もあり345億23百万円、前期比7.2%の減収となりましたものの、営業利益は、新製品・バラエティ製品の市場導入に伴う

コストが高んだ前期に対して、当期は経費の効果的運用を徹底したことなどから、13億98百万円、前期比94.9%の増益となりました。



海外食品事業 | 売上高 186 億円(前期比104.4%) | 営業利益 13.8 億円(前期比138.1%)

当事業セグメントは、重点3エリア（米国・中国・東南アジア）における事業拡大のスピードアップと収益力強化に取り組んでまいりました。なお、外食事業セグメント新設に伴い、当事業セグメントに含まれておりました海外で展開するレストラン事業を外食事業へ移管しております。

米国事業は多様な販売チャネルに応じた製品展開を着実に進めたことで「HOUSE TOFU」ブランドの浸透が進み、増収増益となりました。

中国事業は、家庭用・業務用の両面から力強い成長を続けておりますが、日本式カレーライスの一層の定着に向けて積極的なコスト投下を図っており、増収減益となりました。

東南アジア事業は、タイにおける機能性飲料事業を中心に事業基盤の構築に注力しております。なお、東南アジアのグループ会社は決算日の変更により、当期は9カ月の変則決算となっております。

以上の結果、海外食品事業の売上高は185億77百万円、前期比4.4%の増収、営業利益は13億81百万円、前期比38.1%の増益となりました。



外食事業 | 売上高 183 億円(前期比272.9%) | 営業利益 0.4 億円(前期比 -)

2015年12月に(株)杏番屋株式の51%を取得して連結子会社化したことに伴い、第4四半期連結会計期間より新たに連結に組み入れております。

レストラン事業のうち、(株)杏番屋のフランチャイジーとして運営するアジアレストラン事業は、中国都市部を中心に競争環境が激しさを増すなか、着実な店舗展開と店舗品質の向上に努め、増収増益となりました。

以上の結果、外食事業の売上高は、(株)杏番屋の新規連結効果が大きく寄与し、183億12百万円、前期比172.9%の増収、営業利益

は連結効果とのれん等の償却負担がほぼ相殺され、44百万円となりました。



その他食品関連事業 | 売上高 627 億円(前期比107.0%) | 営業利益 1.0 億円(前期比 -)

当事業セグメントは、各機能の強化とグループ間シナジーの追求による、グループとしての総合力の向上に努めてまいりました。

運送・倉庫事業を営むハウス物流サービス(株)は、事業構造の見直しと製品輸送力のアップ、抜本的コストダウン活動の推進などによる収益構造の再構築に取り組んだ結果、前連結会計年度に発生した営業損失を解消し、黒字に転換しております。

一方、コンビニエンスストア向けの総菜等製造事業を営む(株)デリカシェフが、総菜新工場稼働に伴う初期コストが当初想定以上に高

んだことから営業損失となり、当事業セグメントの利益を押し下げております。

以上の他、食材の輸入・販売等を営む(株)ヴォークス・トレーディングにおいて、前期は決算日変更に伴う10カ月の変則決算であった影響もあり、その他食品関連事業の売上高は627億18百万円、前期比7.0%の増収、営業利益は1億1百万円（前期は営業損失7億80百万円）となりました。

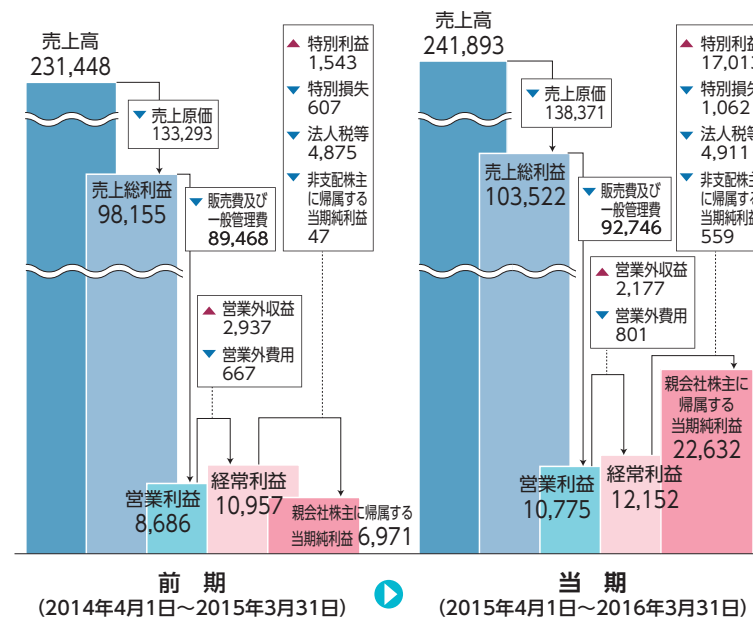
■ 主要連結経営指標

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
売上高	232,610	231,448	241,893
営業利益	9,589	8,686	10,775
経常利益	10,962	10,957	12,152
親会社株主に帰属する当期純利益	8,792	6,971	22,632
1株当たり当期純利益 (単位：円)	83.13	67.61	220.48
総資産	273,368	286,149	349,427
純資産	210,097	221,456	260,329
1株当たり純資産 (単位：円)	1,974.31	2,140.27	2,231.86
1株当たり配当金 (単位：円)	35	30	30

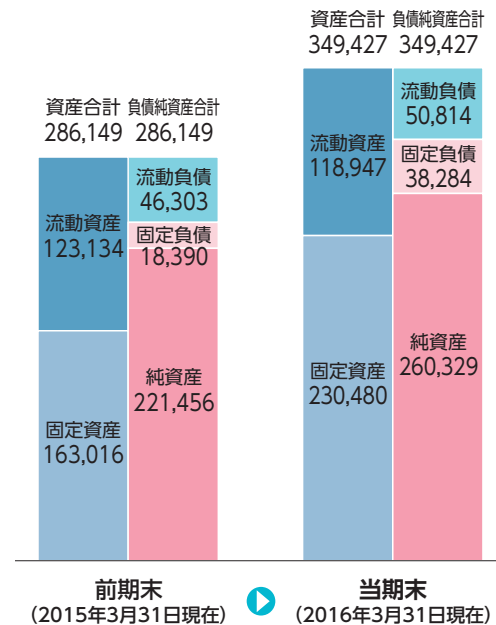
■ 連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



■ 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



特集
株式会社壺番屋がハウス食品グループへ

2015年12月8日付で、株式会社壺番屋をハウス食品グループに迎えました。「カレーレストランの壺番屋」と「カレーメーカーのハウス」がカレーの世界をさらに広げ、お客さまにさらなる「おいしさ」と「感動」をご提供してまいります。



壺番屋 浜島社長(左) 当社 浦上社長(右)

メーカーとレストラン 両社の強みを活かしたカレーの世界のさらなる広がり

川上であるメーカーと、川下であるレストランが、メニュー開発や販促展開などにおいて、より強固な連携を図ることで、お客さま満足とメニュー価値を向上し、お客さまにさらにご満足いただけるカレー事業の展開を実現してまいります。

品質保証力の向上

調達、生産から店舗販売に至るまで、安全・安心への取組をさらに強化します。また、グループ会社である(株)ハウス食品分析テクノサービスを通じた(株)壺番屋との品質面での連携を従来以上に取り組むことで、より強固な品質保証体制を確立してまいります。



調達・生産(バリューチェーン)における協働

両社の調達機能を連携させることで、さらに品質の高い原材料をより安定的に調達することができます。また、工場操業度や製造工程の効率化など生産性の向上にも取り組んでまいります。

海外レストラン事業推進の強化

両社の連携をより密にする体制を構築し、「既存エリアでの事業基盤の構築」「出店拡大および新規エリア選出」において協働することで、日本のカレー文化を内食・外食の双方で世界に伝えてまいります。



株式会社壺番屋 会社概要 (2015年11月末現在)



企業理念 「社是」「ミッション」「経営目的」の三つを企業理念として掲げています。

社 是 ニコニコ・キビキビ・ハキハキ

ミ ッ シ ョ ン 経営を通じ人々に感動を与え続け、地域・社会に必要な存在となること

経 営 目 的 会社にかかわるすべての人々と幸福感を共有すること

所在地 愛知県一宮市三ツ井六丁目12番23号

設 立 1982年7月1日

代 表 者 代表取締役社長 浜島 俊哉

資 本 金 15億3百万円

従 業 員 750名

店 舗 数 1,421店舗(うち海外152店舗)

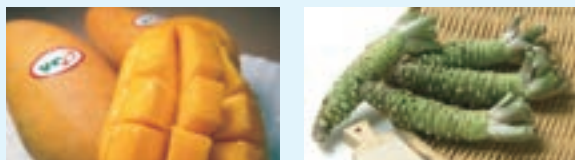
国内

**(株)ヴォークス・トレーディングと
(株)堀江大和屋が合併**

(2016年4月)

ハウス食品グループの原材料調達領域を強化することを目的に、子会社(株)ヴォークス・トレーディングを存続会社として、子会社(株)堀江大和屋を吸収合併する、グループ内の事業統合を行いました。

両社の経営資源を集約化し、国内外の調達・販売ルートを共有することで、グループ内の連携の深耕・拡大、また事業基盤のさらなる強化を進めてまいります。



台湾

**台湾ハウス食品(有)を
新たに設立**

(2016年1月)

ハウス製品を通じて、おいしさ与健康、新価値をお届けし、台湾のお客さまの笑顔ある暮らしに貢献することを目的に、現地法人「台湾ハウス食品有限公司」という販売会社を新たに設立いたしました。台湾では、2007年から営業所を開設し、日本式カレー・シチューの普及を進めてまいりましたが、現地法人の設立を機に更なる販売の強化を図ってまいります。



※台湾で展開するカレー・シチュー

米国

**ハウスフーズアメリカCorp.
が売上高1億ドルを突破**

(2015年12月)

米国で豆腐事業を中心に展開するハウスフーズアメリカCorp.の売上高が、2015年度に創業以来初めて1億ドルを突破しました。健康志向の高まりにより好調なオーガニック豆腐の他、DHA豆腐や豆腐チゲ鍋用スープ付豆腐など、高付加価値製品も展開しており、米国で愛される「HOUSE TOFU」ブランドづくりを進めております。



※ロスアンゼルス工場

中国

中国でルウシチューを新発売

(2015年12月)

中国で拡大する洋食ニーズに対応するために、クリームシチュー「西趣奶炖小方」を新発売いたしました。店頭や屋外イベントでの試食などの活動に加え、WEBを活用したプロモーションを展開するなど、カレーとともに中国の家庭に新しい食文化を普及してまいります。



※「西趣」はシチューの発音、「奶炖」はクリーム煮込みを意味します。

香辛・調味
加工食品事業



素材が煮とけたコク深さ!
レストランを思わせる濃厚なカレー

「プロ クオリティ ビーフカレー 4袋入り」シリーズ

しっかり煮込んだ牛肉・玉ねぎ・トマトの煮とけた旨みと甘み。また、デミグラスソースのようなコク深く濃厚なソースに仕立てたレストラン品質のカレーを味わえるレトルトカレー「プロ クオリティ ビーフカレー 4袋入り」を新発売いたしました。「プロ クオリティ ビーフカレー 4袋入り」は素材が煮とけたソース仕立てなので、アレンジも自在です。ご家庭で簡単にレストラン品質のカレーをお楽しみいただけます。



詳しい情報はこちら

新製品



Morning Meal
レモンの朝

朝のカラダにうれしい朝食ゼリー
『C1000 レモンの朝』

すっきりしたレモン味に、朝の定番であるヨーグルト風味をプラスした、爽やかなレモンヨーグルトゼリー「C1000 レモンの朝」を新発売いたしました。ビタミンC1000mgを含めた7種類のビタミンが、1日のスタートをサポートします。また、1袋でおにぎり約1個分のエネルギー180kcal※が補給できるので、朝食代わりにぴったりです。さっと飲めるパウチタイプゼリーで、朝の忙しい時間帯にも、手軽にエネルギーとビタミンが補給できます。

※日本食品標準成分表2010 より

詳しい情報はこちら

健康食品事業

株主優待制度

6月・12月の年2回、半年以上継続して単元株（100株）以上の株式を保有の株主さまを対象に、当社グループの製品詰合せを「株主優待」として贈呈しております。本年6月より、新たに200株～1,000株未満の株式を保有の株主さまに対する株主優待を新設いたしました。

NEW 新設しました。

100株～200株未満保有 1,000円相当の詰合せ	200株～1,000株未満保有 2,000円相当の詰合せ	1,000株以上保有 3,000円相当の詰合せ
-------------------------------	---------------------------------	----------------------------



※写真は、2016年6月上旬に贈呈した株主優待製品です。

株主さま向け工場見学会のご報告

(2016年3月23日 ハウス食品(株)静岡工場にて開催)

多数の株主さまのご応募の中から、27名の株主さまにご参加いただき、「株主さま向け工場見学会(ハウス食品(株)静岡工場)」を開催いたしました。

当日は、ルウタイプのカレーやシチュー、レトルト製品が製造される工程をご覧いただいたほか、スパイスカレッジではスパイスの身近な活用法などを体験いただきました。昼食懇談会では、ハウス食品グループの製品を使用したカレーやデザートをお召し上がりいただき、当社グループの役員・社員とご歓談いただきました。

今後も、株主・投資家のみなさまとの対話を深めることができる場を定期的に企画してまいります。

参加された株主さまのご感想

- 安全安心に十分配慮された工場での製品づくりがされていて、信頼が大いに高まりました。
- 大変親切な案内と説明で、本当に感謝感激の一日でした。
- 食事をしながら役員の方々とは色々なお話をとても楽しかったです。



●会社概要 (2016年3月31日現在)

創業年月日 1913年11月11日
 設立年月日 1947年6月7日
 資本金 9,948,323,523円
 事業内容 グループ戦略立案、事業会社(国内・海外)への経営サポートならびに国際事業統括
 従業員数 246名(連結:6,376名)
 所在地 ●大阪本社
 〒577-8520
 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
 TEL 06-6788-1231(大代表)
 ●東京本社
 〒102-8560
 東京都千代田区紀尾井町6番3号
 TEL 03-3264-1231(大代表)

●役員 (2016年6月28日現在)

代表取締役社長 浦上 博史
 代表取締役専務 松本 恵司
 専務取締役 広浦 康勝
 常務取締役 工東 正彦
 (ハウス食品株式会社 代表取締役社長兼務)
 取締役 藤井 豊明
 取締役 田口 昌男
 取締役 小池 章
 取締役 白井 一夫
 (ハウスウェルネスフーズ株式会社 代表取締役社長兼務)
 取締役(社外) 山本 邦克
 取締役(社外) 西藤 久三
 監査役 塩田 昇司
 監査役 加藤 浩
 監査役(社外) 進藤 大二
 監査役(社外) 蒲野 宏之
 監査役(社外) 藤井 順輔

第70期 定時株主総会のご報告

平成28年6月28日にリーガロイヤルホテル(大阪)で開催された当社第70期定時株主総会におきまして、次のとおり報告・決議されました。

◆報告事項

第70期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件は、上記事業報告の内容、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。

第70期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)計算書類報告の件

本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

◆決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案のとおり承認可決され、当期の期末配当金は、1株につき15円と決定いたしました。

第2号議案 取締役10名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、浦上 博史、松本 恵司、広浦 康勝、工東 正彦、藤井 豊明、田口 昌男、小池 章、白井 一夫、山本 邦克、西藤 久三の10氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第3号議案 監査役2名選任の件

本件は、原案のとおり承認可決され、加藤 浩、藤井 順輔の2氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第4号議案 当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)の継続の件

本件は、原案のとおり承認可決されました。

株式情報

Stock Information

●株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行済株式総数	102,758,690株
発行可能株式総数	391,500,000株
株主総数	71,631名
1単元の株式数	100株

2016年3月期配当金

	1株当たり配当金
第2四半期末	15円 (前期比±0円)
期 末	15円 (前期比±0円)
年 間	30円 (前期比±0円)

2017年3月期予想配当金

	1株当たり配当金
第2四半期末	15円 (前期比±0円)
期 末	15円 (前期比±0円)
年 間	30円 (前期比±0円)

●株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日

中間配当制度 あり

定時株主総会 毎年6月開催

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

株主名簿管理人
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
大阪市中央区北浜四丁目5番33号

郵便物送付先および
お問合せ先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

公告の方法 電子公告により、当社ホームページ
<http://housefoods-group.com>に掲載して行います。
ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京

証券コード 2810

株式に関するお手続きのお問合せ先

お手続き内容	口座の種類	証券会社の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式*
住所変更、単元未満株式買取請求、 配当金の受領方法・振込先のご変更などの各種手続		口座を開設されている証券会社	
郵送物の発送と返戻に関するご照会		三井住友信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-782-031	三井住友信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-782-031
支払期間経過後の配当金に関するご照会			
株式事務に関する一般的なお問合せ			

* 株券電子化実施 (2009年1月5日) に際し、証券会社等に口座を開設し、証券保管振替機構 (ほふり) に株券を預託されなかった株主さまのお名前、ご住所などのデータは、当社が三井住友信託銀行に開設した「特別口座」に記録されております。

株式に関するその他のお問合せ先

ハウス食品グループ本社株式会社 総務部 電話06-6788-1214
受付時間 平日9時～17時30分 (夏期休暇・年末年始休暇および創業記念日(11月11日)を除く)

ハウス食品グループ本社株式会社

〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
<http://housefoods-group.com>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用しています。